

平成 29 年度第 1 回 『県指定重要文化財「洋学校教師館」保存修理検討委員会』 会議録(要旨)

日 時：平成 29 年 11 月 29 日（水）15 時 00 分～（現地視察：14 時 00 分～）

会 場：秋津公民館ホール（現地視察：東部浄化センター）

出席委員：猪飼委員、磯田委員、今村委員 ※欠席：伊藤委員、伊東委員

オブザーバー：（熊本県文化課）能登原主任学芸員、角田指導主事

事 務 局：中元副課長、本田主査、西川、磯畑、田川、野末、増田、丹後田

	委員長・副委員長選任
今村委員	これまで同様、委員長を猪飼委員に、副委員長を伊藤委員に推薦したいが如何か。
事務局	今村委員からご推薦いただいたが如何か。 →（各委員）異議なし では、委員長を猪飼委員に、副委員長を伊藤委員に願います。本日ご欠席の伊藤委員には後日事務局から確認させていただく。（後日確認、了承）
【次第 1：議事】	
	（１）部材調査結果等について
事務局	（部材調査・設計業務委託の業者選定について説明。） 今後のスケジュールについては設計業務の進捗状況によるため、現時点ではお示しできない。
設計業者（文建協）	（「（１）部材調査結果について」説明。）
今村委員	昭和 7 年に起破風が造られたのか。
磯田委員	明治 30 年前後の写真で起破風が確認できるため、明治 27 年の移築の際に造られたものと思われる。
設計業者（文建協）	資料が誤っている。訂正する。
猪飼委員長	間仕切りの話も。第一次世界大戦時、ドイツ軍捕虜を入れるために、間仕切りを造っているという記述がある。移築段階だけでなく、その間に変化があることも十分に考えられるため、その辺りも考慮していただきたい。
磯田委員	明治 27 年の時にはほとんど新しいものはないような報告になっているが、使用工具をみると、明治 4 年と明治 27 年は同じ。物理的な違いは分かるか。例えば、可能性としては、明治 27 年にまったく新しく造作したということも考えられるが。
事務局	部材格納時の調査のみであるため、詳細な調査までは行き着いていないところ。
磯田委員	参考として、当時の新聞に古材を使用して造ったという記述はある。
設計業者（文建協）	物理的な痕跡としては、床板は化粧仕上げ。その上にリノリウムが張ってある。一度化粧で仕上げた後に、使用痕がある。その上に角釘を打って、リノリウムが張ってある。角釘が明治 27 年のものであるため、その下の使用痕は明治 4 年のものと分かる。あとは、ペンキの塗料、塗装の層が科学的に分析できれば、これは時間がかかるが、当初のものであることなどは分かる。いずれにしろ、一部だけ古材を持ってきてやったとは思えない。小屋組みとの一体感がある、付け足したということはないと思われる。解体して造りなおしたというほうが合理的であると考えられる。

今村委員	洋釘はいつ頃から使用されるか。
設計業者（文建協）	輸入した洋釘を使っていることもあるが。
今村委員	明治 10 年頃から使っている。明治 27 年に造りなおしたときに、角釘だけでなく、洋釘も使っている可能性もあると思われる。
設計業者（文建協）	国内生産が始まり、流通が始まったのが明治 30 年頃。それ以前は輸入したもの。熊本で使われている可能性もある。ただ、その頃の釘は特徴的なもの。現時点ではジェーンズ邸では確認できていない。リノリウム自体も明治 20 数年から流通し始めたもの。いずれ精査したい。
磯田委員	資料の図面を説明していただきたい。
設計業者（文建協）	（床組伏図、柱軸組等を図面にて説明。）
猪飼委員長	明治 4 年の当初材がずいぶん使われているという印象。
	（２）資料について
事務局	（「（２）資料について」説明。）
猪飼委員長	修復が出来ない資料はどの程度あったか。
事務局	精査中であるが、可能な限り判別した上で、修復するか、廃棄するかなどの判断を行っていききたい。
今村委員	寄託や寄贈されているものが多いが。そのあたりはきちんと把握してやって欲しい。写真類はどうか。
事務局	写真については、そのまま再度展示することが難しいものもあった。今後展示を検討する際に、再度データの提供依頼等を行い、展示等を検討していきたい。
今村委員	福田先生から寄贈されたものは如何か。
事務局	精査中である。全ては把握できていない。
猪飼委員長	同志社から写真等は再度提供するという話も聞いている。資料もそうであるが、部材についても随分残っているという印象。新しく出発するには良い状況と考えられる。
	（３）復旧にあたっての基本的な考え方
事務局	（「（３）復旧にあたっての基本的な考え方」について説明。）
猪飼委員長	震災復旧ということもあるので、現状復旧が基本であるが、当初の姿への復原を目指すという方針である。
今村委員	国の補助は文科省か、文化庁か。
事務局	文科省である。
	移築復旧についての市の方針
事務局	補助の話に付け加えて、文科省補助については現地復旧が原則であるということで、前回委員会では現地復旧する方針をご説明させていただいた。その後国と折衝を続ける中で、移築した場合でも補助対象となりうるという考えが示された。市としては、水前寺江津湖周辺の周遊性・地域活性化への貢献等を考え、旧市立体育館跡地に移築して復旧するという方針を考えており、地域への説明、議会への説明を行いたいと考えている。委員にもご意見をいただきたい。
猪飼委員長	本日市議会で本件に関して質問があっているようである。市長から今の内容で答弁があると聞いている。この場ではまだ議論していないことであるため、今回は各委

	員からご意見を伺うというところまで行いたいと考える。
今村委員	今後の利活用を考えれば、現在地より芝生広場への移築は重要な決定と考える。個人的には大賛成である。
磯田委員	諸条件の中で市が決定したことであれば仕様が無いと思う。 但し、移築するとなればもう5ヶ所目になる。ジェーンズ邸は5ヶ所分の情報を背負って生きて行かなければならない。最も重要な当初の位置をPRするということをやって欲しい。もちろん、2番目、3番目も重要であるが、当初の位置はジェーンズ邸が建っていたというだけでなく、熊本の近代化が始まった場所でもある。ここから熊本の近代がスタートしたということ、そしてジェーンズ邸もそこに建っていたというPRを何かやっていって欲しい。
事務局	※事前にいただいた伊東委員の意見を事務局から紹介 「本来、ジェーンズ邸があった古城の位置での建設が事実上難しいのであれば、あとはどこにあっても大差ないように思います。 周囲の水前寺公園やあとに残された夏目漱石第三旧居や近隣の江津湖などの文化的な施設等とどうつないで、関心のある方々や観光客に見ていただくのかという、もう少し広いエリアでの計画を立て、そこへ向かっての整備をすべきであろうと考えます。つまり単なるジェーンズ邸の修理工事に終わらせず、周辺の整備にも力を注ぐべきと考えます。」
猪飼委員長	当初の位置は古城である。当初の場所である第一高校の問題に関わると思うが。本日はこのような意見があるという確認だけで。 ジェーンズ邸そのものがどういう役割を期待されているのか。歴史性とこれからの未来をどのように考えるか、そういった部分を議論していくべきだろうと考える。
	※伊藤委員は長期出張中であり、事前にご意見をいただいていない。
	(議事終了)